

高額な脳ドックへの補助制度を

答 来年度実施に向けて検討します



篠崎久美子議員

【下水道受益者負担金 問題について】

問 事務改善報告書の「加入分担金制度の問題点の把握」と「制度の見直し」への取り組みは。

村長 検証の結果、問題点としては、賦課替えした地番が分かりにくい、土地所有者変更時に加入分担金賦課地であることが引き継がれない場合がある、賦課替え地が競売などで新たな受益地となった場合に賦課できるのか、負担金の1.5倍の1350円の分担金額に理解が得られるかなどがあります。専門家の意見を取り入れながら、制度改正に取り組めます。住民説明会の様子や質疑応答などの公表は。

村長 説明会の様子は、取りまとめのうえ、お伝えします。報告書の客観性の担保のためにも、外部評価が必要では。

村長 外部意見も必要と考え、まずは日本下水道事業団の助言を求めたいと思います。

問 報告書の再発防止策のうち「全庁的な事務改善」への具体的取り組みは。

村長 行政全体の取り組むべき姿勢ととらえ、方針に沿って組織として再発発したいです。

【特定健診・がん検診 について】

問 特定健診、がん検診の受診率向上策は。

村長 広報、行政無線、ユーティリティなどの周知や、各種検診のセット化、土日検診の実施、検査項目の充実等を図っています。がん検診は、無料クーポン券の発行、未受診者への受診勧奨もしています。

問 現在2年目ごとの女性特有のがん検診を、毎年実施しては。

村長 国の指針に合わせており、今のところ考えていません。

問 受診者が増加傾向の高額な脳ドックへの補助制度を創設しては。

村長 経緯を踏まえ、実施の可否も含めて、平成27年度予算編成時に検討します。

問 保健指導員との連携は。

村長 保健指導員は48名で、学習会開催、地区健康教室、声掛け運動などで受診呼びかけしてもらっており、保健師も連携して地区担当制としています。

【白馬ブランドについて】

問 地域ブランド化への考えと、取り組み状況などは。

村長 ブランド化は観光振興、まちづくりにも結びつくと考え、重要な施策の一つに位置付けて取り組めます。農政課では、農産品や加工品のブラン



夢白馬ろまん市

ド化に向け振興公社などと連携してイベント開催などを企画し、観光課では、今後の観光地経営計画の中で、山岳・自然環境、文化、慣習などの資源をベースに住民や事業者とともに進めていきます。

問 県の「山の日」や「世界水準の山岳観光都市構想」に向けては。

村長 絶好の機会ととらえ、3市村連携で「北アルプス山麓フェスティバル」を実施予定で、情報面を強化し、すでに親子向け案内を開始しています。今後、協力して北アルプス

エリア全体のブランド化を図ります。

問 山小屋トイレの環境整備状況は。

村長 今後5年をかけて山小屋トイレの改修を進める予定です。

問 県が銀座にオープンする情報発信拠点の「しあわせ信州シェアスペース」の利用予定は。

村長 大北地域として10月に1週間「信州・北アルプス山麓ウィーク・in・銀座」を予定、うち白馬村フェアは10月7日の予定です。